

咽頭結膜熱(プール熱)

アデノウイルスが原因で、一年中発生はありますが、7月～8月にピークがある夏かぜの一種です。乳幼児から、学童の年齢に流行することが多く、プールを介して流行がみられることがあるため“プール熱”とよばれています。潜伏期間は5～7日です。登園・登校は、症状が無くなって2日たってからとなります。



主な症状と治療

発熱・咽頭炎・結膜炎が三大症状です。

熱: 38℃以上の熱が(40℃を超えることもあります)5日くらい続きます。

咽頭炎: のどが赤くなり痛みが強く、扁桃に白っぽい膿のようなものがついたりします。

結膜炎: 目の充血、痛み、めやに、まぶしさを訴えることがあります。

特徴のある症状、周囲の流行などから診断します。

また、のど・はなから検査をして診断することができます。

特別な治療はありません。安静にして回復を待ちます。熱が続くので、熱さましをタイミングよく使って水分を十分にとり、脱水にならないようにしましょう。

目薬が処方されることもあります。

家庭で気をつけること

- ・安静にして、水分をじゅうぶんとれるようにしましょう。
- ・目やにをふいたり、オムツを替えたりした後はしっかり手を洗いましょう。
- ・目の炎症が強い間は特に、患者さんと同じタオルを使わないようにしましょう。
- ・治った後も、しばらくの間は便中にウイルスが排泄されますので、おむつ交換のあとは手をしっかり洗いましょう。

